

---

# 電子メール中毒 (E-mail Addict) のインターネット利用法

岡部 徹

日本学術振興海外特別研究員・MIT Postdoctoral Fellow  
e-mail: toru@mit.edu URL: <http://www.mit.edu:8001/people/toru/home.html>  
<http://www.mit.edu:8001/afs/athena.mit.edu/user/t/o/toru/www/home.html>

---

## はじめに

私がマサチューセッツ工科大学 (MIT) の材料工学科にポスドクとして赴任してから1年半が過ぎた。私が行なっている材料の研究とインターネットとは「なんの関係もない」ため、赴任当時はコンピュータ・ネットワークについて何も知らなかった。ところが、今の私の MIT での生活にとってインターネットをはじめとするネットワーク環境はなくてはならないものになっている。以下に、一例として私のネットワーク・ライフの1日を紹介し、私をとりまくネットワーク環境を簡単に紹介する。さらに詳しく知りたい人は、私自身のホームページ (hypertext home page) をモザイク等の通信ソフト (WWW Browser) を使って覗いてみ

ていただきたい。

## 私のネットワークライフ/

1994年12月2日・金曜日・晴れ

今日は、朝から実験のデータ処理で忙しく、日中は大学で電子メール (e-mail) をチェックする暇がなかった。週末を控えての金曜日には重要なメールが少ない上、昨夜遅くに自宅から電話回線 (dial up) を使って MIT のネットワーク環境に入りメールをチェックしているのであえてチェックする必要はないと思ったが、電子メール中毒 (e-mail addict, e-mail junkie) の私はどうも落ち着かない。少なくとも2人の友人が私にメールをくれた (e-mail した) はずであり、年末目白押しのパーティーの予定が気になる。夕方、実験室を去る前に念のためメールをチェッ

クしたら、「You have 11 messages」とあった。ちょっとメールボックスを覗かないとすぐに溜まってしまう。最近では、メールがこない日はめったにないが、結構たくさん届いていたのでなんだか嬉しい。

メールの内容は、グループワークの打ち合わせから、パーティーの案内まで多様である。このうち約半分は、材料関係のニュースグループや特殊なパソコンソフトのユーザズグループからのメールであり、読まずに捨てても大したことはない。しかし、このようなゴミ (junk mail) の中にも結構役立つ情報があるので、気軽に捨てるのはもったいない。いちいち全部読んで返事をしていたら、今夜のパーティーに遅れるので、重要そうなメールのみ目を通し、一部はプリントアウトして大

学をあとにした。

大学ではワークステーションを使っているが、夜自宅に帰ってからはパソコンと電話回線を使ってビールを飲みながらじっくり電子メールを読んでいる。この中に京大の先生から転送されてきた本誌の執筆依頼のメールが入っていた。インターネット経由でインターネットについて何か書くように頼まれてしまったわけである。ふだんお世話になっているネットワーク環境を紹介するのも悪くないので、さっそく自宅のパソコンを MIT ネットワークの端末から、ただのワープロに切り替えて今、何を書こうか考えているが、1日の疲れとビールのせいで今一つ考えがまとまらない。したがって支離滅裂な内容になるが、ご容赦いただきたい。

### 私のインターネットの利用法

私のボスは私のすぐ隣の部屋にオフィスを構えているが、私たちはお互いに出向くことなくしばしば e-mail でやりとりする。英語会話が不得意な私にとって e-mail は強力な意思伝達の手段である。読み書きだけで済み、速いテンポの会話がな分、じっくり正確に対応できる利点があるからである。特にポジションの契約の継続交渉など正確な意思伝達が必要なときには非常に有効である。パーティーの約束や大学内での事務連絡なども、その場で話さず「I'll e-mail you later」や「Please e-mail me」などの一言で終わらせることも多い。また、出張先のボスや忙しい人に連絡をとるとき、e-mail ほど便利なものはない。

私のインターネットの用途の大半が e-mail であるが、おそらく MIT の大半の人が同じ状況であろう。最近、日本からのメールも多くなったとはいえ、

米国内、特に学内からのメールが9割以上を占めている。日本からのメッセージは日本語も英語も両方くるが、中には日本語のローマ字入力という電報のような非常に読みづらいものもある。最近ではメールが多くなった分雑用も増えたが、時差を気にせずに下らないことでも気軽に連絡できるのはありがたい。（そうだ、この原稿もマルチメディアに詳しい父親や友人に送ってチェックしてもらおう！）

### その他のインターネット利用法

日本から来られる「お客様」にインフォメーション・スーパーハイウェイの重要性について説明するため、モザイク（正確には Mosaic という Browser を使った WWW, World Wide Web の利用法）を紹介することが多いが、実際は私はあまり使わない。私がモザイクを使うのは、他大学の友人の連絡先が分からなくなったときや、各種マニュアルを探すときぐらいである。日本におけるモザイクがどの程度普及しているのか知らないが、おそらく、大きな大学が総合案内程度の情報を乗せたホームページをつくっている程度ではあるまいか。モザイクを使った WWW の醍醐味を知りたい方は、MIT のコンピュータクラブ（Student information Processing board）のホームページや NASA の案内を覗くことをお勧めする。

最近、辞書や地図をはじめ商品のカタログ等の各種案内も多くなってきたため、少しは面白くなってきたが、材料屋にとっての利用価値は今のところあまり高くない。しかし、モザイクのような通信ソフト（Browser）が将来のマルチメディアの中核技術となり研究者の生活を変えることは間違いないであろう。高速データ回線とカラーの

ワークステーションを気軽に使える方は、いちど、私自身や MIT の学生が作った個人のハイパーテキスト・ホームページを覗いてみるのも一興ではないだろうか。

先ほど、私は junk mail が送られてくると書いたが、これは e-mail を介したニュースグループによるものが主である。これとは別に、もっとパワフルで多岐にわたってニュースを提供するネットニュース（net news）というものもある。私も fj（From Japan）という日本からのニュースをいくつかとった（subscribe した）ことがあるが、最近では時間がなくて利用していない。材料関係で面白いニュースグループをご存じの方は、ぜひそのアドレスや関連情報を教えていただきたい。

MIT の仲間の中には telnet というコマンドを使ってインターネット経由で遠隔地のホストにログインしたり、また、ファイル転送（ftp）などを行っている人も多い。しかし、私のようなコンピュータの素人にとっては、MIT のユーティリティ（自由に使えるソフト）で十分満足できるので、わざわざインターネットを使ってファイルを持ってくる必要はほとんどない。

あまり流行っているとは言えないが、インターネットの利用方法の1つに IRC（Inter Relay Chat）というのがある。リアルタイムの伝言板形式で複数の人物と会話が楽しめるソフトもあるらしい。ローカルには talk や discuss というコマンドで同じことができる。

### MIT のネットワーク環境

MIT のネットワーク環境はとても充実している。ここでは「add nihongo」というコマンドを打てば、ワークステーション上で日本語環境（kterm）が使

えるようになり、日本語のエディター (nemacs や mule) も立ち上がる。どのプリンターからも日本語の出力も簡単にできることを知ったときはとても驚いた。もうすぐ MIT でも一太郎が快適に走る日がくると信じて疑わない。Frame Maker などのワープロだけでなく、表計算や図形ソフトさらにはデータ検索もワークステーション上で誰でも気軽に利用できるのも、私たちに与っては高性能な文房具でもある。自分の作ったファイルを自分のホームディレクトリーにある Public というディレクトリーに置いておくと誰でも簡単にコピーできるので、仲間とのファイルの共有やグループワークにはとても便利である。

話がどんどん逸れるが、友人がどこかでログインするとすぐに分かるように私は環境を設定している。ここでは相手の端末の画面に直接文書や画像を e-mail 以上に簡単に送れる環境が整っている。友人がログインしてくると友人のスクリーン上に直接目立つメッセージを送って相手の仕事をダイレクトに邪魔できる利点がある。このネットワーク環境はじつに便利で、私が端末上で分からないことや困ったことがあったらリアルタイムで不特定多数のネットワークの人たちに助けを求めることができる。

MIT では、学部入学時から各自がネットワークのアカウントを与えられており、誰もが最新のワークステーションを何時でも至るところで使える環境が整っているため、コンピュータ通信技術の申し子みたいな学生 (Internaut) がうようよしている。私はこのような友人からときどき個人的に講習を受けているが、情報通信技術の奥の深さに感動して、いつも「Amazing!」

を連呼している。

## 今後のインターネット

インフォメーション・スーパーハイウェイというマルチメディア社会のインフラ構築が現在の米国では着々と進んでいるが、この発展にも充実したネットワーク環境で教育を受けた人材が多大な寄与をしている。今後さらに、通信を中心とした「コンピュータを駆使する能力 (computer literacy)」の重要性が増すであろう。

日本のマスコミも「マルチメディア」を呪文のように唱えてはいるが、私の印象では省庁と通信会社の政治的駆け引きやハードの整備のみが先行し、スーパーハイウェイにとって最も重要な「マルチメディア教育」というインフラ整備が今一つ遅れているような気がする。このままでは高額で使い勝手の悪い日本の高速道路のようなネットワークが出現し、さらには日本の英語教育のように時間をかけている割には実用からはかけ離れた能力しか身につかない不思議な教育システムができあがるのではないかと心配してやまない。ハードのみならず教育環境の整備に多大の金と労力をかけている MIT におけるマルチメディアの普及効果にはいちじるしいものがある。マルチメディアに関しては、米国から学ぶべき点が多くあるのではないだろうか。

## 材料屋にとってのマルチメディア

MIT には出入りの業者がいなかったため私はいつも電話かファックスで実験に必要な資材を注文しているが、見たこともない物や買い方の分からない物を注文するときほど困ることはない。そこで、パーツや試料の注文もネットワーク上のカラーカタログで好みのもの

を選び、注文も「注文」のボタンをクリックするだけで済むようにならないものだろうか。(時に一部の企業が WWW を使ってこのサービスをはじめてはいるが)

材料屋としては、たとえば「状態図」というボタンをモザイク上で叩いて (クリックして)、「元素」を選ぶと「最新の状態図」が簡単に入手できるようになる日が待ち遠しい。ついでに、「最近の研究」をクリックすれば、自分がこれから何をなすべきかが分かればもっとありがたいのだが・・・

## おわりに

今日のところはこの辺でやめておこう。夜中の 2 時 45 分、サミュエル・アダムスというボストンの美味しいビールもとっくに空になってしまった。今後のマルチメディアの発展が楽しみだが、世の中、便利になればなるほど忙しくなるので、多くの人の睡眠時間がどんどん減っていくような気がする。明日、酔っぱらっていないときにこの文章を修正して、直接、e-mail かファックスで送ろう。じつは、私の自宅にはパソコンはあってもプリンターがないので、手紙で送ることができないのである。プリンターがないのは、プリンターが買えないほど貧しい生活をしている!? という噂もあるが、わが家のパソコン (Quadra650) は主として MIT のネットワークの一端末として使っているので、ふだんはプリントアウトを必要としない。しかし、今日のように週末に原稿を書くとなればとても不便である。

それでは、みなさん、また、ネットワーク上で会いましょう。  
Talk to you later. Please see me on WWW, and e-mail me...Good night.

# B

# BOUNDARY

バウンダリー：結晶粒界、界面、境界領域、フロンティア、すきま、吹き溜まり、出会いの場

## 特集◆インターネットってほんとにいいだねっ!と

知った上での活用を/いま論じておかなければ  
インターネットと材料情報/九州から世界へつながる  
電子メール中毒のインターネット利用法/インターネットは  
クラッカーの巣か?/インターネットだい好き!

**阪神大震災** 「耐震基準」もさることながら…  
世間管見妄言露見…

炭素量まで考えてバイクに乗ってるかい? —— 商品の機能と素材



**ICONTROLLER** The New Entry Device For Windows

# Mariqua

点灯おしの“マリカちゃん”でえ〜す。テンキー付きなの。可愛い買ってネ♡

# 3

1995/VOL.12.NO.3